

平成26年度

第59回 長野県中学校連合教科研究会

音楽科

目次

I 研究テーマ	2
II 趣旨	2
III 参加校テーマ一覧と参加者名、指導者名	2～3
IV 研究問題と協議内容	3～7
V 本年度の研究の反省と来年度の方向	7～8
VI あとがき	8

I 研究テーマ

「生徒自ら音楽活動の楽しさを体感し、生涯にわたって音楽に親しんでいこうとする心情を育む支援はどうあったらよいか ～表現及び鑑賞の幅広い活動における〔共通事項〕の指導～」

II 趣旨

生涯にわたって音楽に親しんでいこうとする心情は、音楽のよさや美しさなどを感じ取り、音楽について認識を深めていくことによって徐々に形成されていく。そのためには、表現や鑑賞の幅広い音楽活動を行うことが重要であると考え。生徒が、多様な音楽活動を通して、音楽の構造と曲想とのかかわりを理解したり、喜びや楽しさを体感したりするために、教師の支援はどうあったらよいかについて考えていきたい。

III 参加校テーマ一覧と参加者名、指導者名

【第1分科会】

- ・指導者 東信教育事務所指導主事 西澤 真一先生
- ・司会者 松本市立鎌田中学校教諭 望月 光祐先生
- ・記録者 塩尻市立塩尻中学校教諭 楠田美由紀先生
- ・世話係 信州大学教育学部附属松本中学校教諭 安部 文江先生

学校名	研究の要旨（発表順）
信州新町中学校	音楽を形作っている要素の有効な指導方法について
旭ヶ丘中学校	歌詞の内容から感じ取った思いを音楽的要素を根拠とした表現につなげる指導のあり方
高遠中学校	生徒が曲想表現を追究するための手立て ～授業の導入から課題把握に焦点を当てて～
豊科南中学校	友とかかわり合って表現を工夫したり高めたりする音楽学習にするための支援のあり方
塩田中学校	音楽のよさや美しさを感じる力の育成～構成を工夫してリズムアンサンブルを創ろう～
両小野中学校	友と関わり願いをもって表現しようとする生徒の育成 ～リズム創作とアンサンブル～
附属長野中学校	「iVOCALOID」を使っでの創作学習 ～友と意見交換をしながら見直す活動～
坂城中学校	イメージを明確にし、友と関わり合いながら取り組む創作学習
附属松本中学校	音楽の特徴をその背景となる文化や歴史などと関連づけて理解し鑑賞する指導のあり方

【第2分科会】

- ・指導者 中信教育事務所主任指導主事 石川 武先生
- ・司会者 木曾町立三岳中学校教諭 渡澤 由香先生
- ・記録者 塩尻市立丘中学校教諭 大久保 慧先生
- ・世話係 信州大学教育学部附属長野中学校教諭 稲垣 典子先生

学校名	研究の要旨（発表順）
根羽中学校	生徒同士の関わりのなかで、意欲的に表現しようとする授業展開はどうあったらよいか ～創作の活動を通して～

売木中学校	音楽を形づくっている要素同士の関連を知覚し、それらの働きによって生み出される特質や雰囲気を感じ取る能力を高める指導はどうあったらよいか
開田中学校	創作の授業のあり方
高陵中学校	表現力の向上のための指導はどうあったらよいか
豊科北中学校	器楽の授業におけるグループ学習のあり方について アルトリコーダーで音の重なりを楽しもう
高社中学校	グループで聴き合う活動を取り入れながら、音楽の要素（強弱・速度・音色・長調・短調・リズム）に目を向けて音楽をとらえる力をつける教材の工夫
才教学園中学校	表現する楽しみ、ミュージカル作品を仲間と作り上げる
附属長野中学校	自分の思いと音楽の構造とをかかわらせて表現する力を高める指導の在り方

IV 研究問題と協議内容

【第1分科会記録】

討議題1 表現したい思いを歌詞や音楽の要素と関連させながら追究するための指導のあり方

附属松本中：音楽の特徴をその背景となる文化や歴史などと関連づけて理解し鑑賞する指導のあり方
信州新町中：音楽を形づくっている要素の有効な指導方法について
旭ヶ丘中：歌詞の内容から感じ取った思いを音楽的要素を工夫して表現につなげる指導のあり方
高遠中：生徒が曲想表現を追究するための手立て～授業の導入から課題把握に焦点を当てて～
豊科南中：友と関わり合って表現を工夫したり高めたりする音楽学習にするための支援のあり方
佐久東中：友と関わり、お互いの声を認め合いながら表現を高めることの喜びを感じられる合唱指導

- ・「思いを持って歌う」ことを目指したい。「どうしてfなのか」など根拠と音楽を形づくっている要素と結びつけることが大切である。
- ・メロディを聴きながら音符を線で結ぶと旋律を意識することができる。
- ・歌詞の解釈、イメージ画の作成などの手立てにより、表現への意欲を持たせることができる。
- ・どのように膨らませたいかなどの頂点構成の工夫を、楽譜に書いてあることと逆の表現を体験してみることも効果的。
- ・少ない授業時数から充実した授業にするための導入の工夫を模索していきたい。

【白澤先生のご助言・実践紹介】

- ・表現の工夫について：音楽はその日の気分もあるし、人によって違うかもしれない。共通教材に関しては、その曲の良さや美しさを味わえば良い。
- ・授業の始めについて：「こういうねらいを持ってこうしている」という教師の考えがあればどんなスタイルでも良い。休み時間は生徒達のものだという考え方もある。生徒の実情に合わせて導入の時間を計画していかななくてはならない。
- ・変声期の指導について：変声の原理を女子も含めてきちんと教える必要がある。変声の時期が昔より遅くなってきている。Fから下の声は中々出ない。この時期の男子の喉は非常に大事なので、教師は「彼らの声を自分たちが預かっている」という責任感を持たなければならない。
- ・合唱曲「風と」（三浦真理作曲）の紹介。この曲で何の力をつけようかということをもまず考える。特に1年生の教材は男子の音域への配慮が重要である。さらにこの曲ではレガート唱法等の歌い方、ハーモニーの味わい、心情を歌で表すなどの学習が可能である。

【西澤先生のご指導】

- ・表現の工夫について：どのように迫っても良いが、最後に何を「味わう」ということが大切であ

る。「味わう」には①その曲の良さを味わう、②自分たちの追究してきたことの良さを味わう、という二通りの意味があり、①と②のどちらを味わわせたいかによって振り返り方の支援が変わってくる。どこから迫るか、様々な音楽を形づくっている要素から何が必要かを焦点化させる。いつも同じ窓口ではなく、様々な要素から迫っていくことによって生徒達が「味わい」方を覚えていく。

- ・授業の導入について：活動の導入と授業の導入は同じではない。学習活動を導き出すための導入を工夫していく必要がある。

討議題2 友と関わり合いながら工夫を重ねていく創作学習のあり方について

塩田中：音楽のよさや美しさを感じる力の育成～構成を工夫してリズムアンサンブルを創ろう

両小野中：友と関わり願いを持って表現しようとする生徒の育成～リズム創作とアンサンブル～

附属長野中：「i VOCALOID」を使っでの創作学習～友と意見交換しながら見直す活動～

坂城中：イメージを明確にし、友と関わり合いながら取り組む創作学習

- ・創作の授業に取り組みたいが、どんなところを切り口にして、3年生まで系統立てて進めていけばいいか、また他の領域とどのように関連づけて行けばよいか難しい。

【竹腰先生のご助言・実践紹介】

- ・木琴を使用し、旋律の反復・ABA形式に要素を絞った創作授業の紹介。題材導入の授業の体験。
- ・創作活動にあこがれを持つために「先輩の演奏」の鑑賞から導入する。
- ・イメージを持って創作活動を進めるために「怪しい、楽しい、悲しい」などの形容詞をもとに創作をスタートさせる。
- ・記譜については、まず音名や回数を書くところから。書くというハードルを下げたところから始め、段階的に正確に記譜できるように学習カードを工夫する。

【西澤先生のご指導】

創作は、扱う要素をどれだけ絞るかということが大切である。曲を作ることを目的にしてしまうと、何でもありという状態になってしまいがちである。曲を作ることを通して何を学ばせたいのかということを確認しなければならない。アンサンブルをすることも同様である。作ることを通して、合わせることを通して、その良さをと感じ取ることが重要である。

まずは反復と変化など要素を絞って。さらに音で、情景や感情を表すことができるのだという経験を。旋律の創作（創作ア）と構成に重点をおいた創作（創作イ）の授業を、バランス良く系統的に位置づけたい。

討議題3 鑑賞実践例事例発表とICT機器を活用した鑑賞について

- ・ICTを活用した鑑賞の授業についての聴講

(文責者：塩尻市立塩尻中学校 楠田美由紀)

【第2分科会記録】

討議題1 友と関わり合いながら工夫を重ねていく創作学習のあり方について

高社中：グループで聞き合う活動を取り入れながら、合唱、帰学、創作、鑑賞すべての分野で音楽の要素（音色、強弱、速度など）に目を向けて音楽をとらえる力をつける工夫

売木中：音楽を形づくっている要素同士の関連を知覚し、それらの働きによって生み出される特質や雰囲気を感じ取る能力を高める指導はどうあったらよいか

根羽中：生徒同士の関わりの中かで、意欲的に表現しようとする授業展開はどうあったらよいか～創作の活動を通して～

開田中：創作の授業のあり方はどうあったらよいか

高陵中：表現力の向上のための指導はどうあったらよいか

- ・アドバイスをし合う、「イントネーション」「反復」に絞って、どんなアドバイスがあるか。
→音の高低に関わって「こっちの方がいいんじゃない？」など。
- ・小学校でも5, 6年で創作をする。6年では4小節など案外長い創作をする。前からの連続性がある創作。中学校に入ってから手立てとして和音進行もひとつ手立てとして考えられるか。子どもたちは以外と和音進行も気にしているのではないか。

【竹腰益臣先生の実践発表から】

- ・グループで記譜のできる子、できない子を組むなどの工夫はあるか。記譜ができない子たちへの支援はどのように。→グループの中で教え合っている。子どもたちにグループ分けをさせる。
①好奇心旺盛な子、②①を支持できる子、③①と②を上手くまとめて活動を進められる子、を考えさせてグループを組ませる。
- ・記譜について。「イメージ→音を焦点化」選択肢を広げすぎない方がいい。音の数を絞るなどして、広げすぎない方がいい。
- ・小学校でどんなことを学習してきているのか。どの程度リズムについて理解があって、記譜ができるか。
- ・竹腰先生の実践では、記譜が先ではない。自分たちのイメージがあってそれに合せて即興的に作られている。それにたいして記譜の指導ができる。演奏までできていてB評価。記譜までできてA評価。ほとんど全員がB評価になる。先につくってあって、楽譜に戻していくつくりかた。
- ・楽器を近隣の小学校と貸し借りしながらやっていく。

【石川先生のご指導】

- ・高社中の実践から。「学び合い」について。モチベーションの違い、一人ひとりの学びを前提に授業構想していくことは大事。一人ひとりを見ていく姿勢が大切。「魔王」の学習について。いろいろな形でやってみるとよい。「ちょうちょ」から入り、いろいろなパターンで聞かせること。体感的につかませていくこと。コール&レスポンスで速度、調性などをつかませることもできる。
先入観なしで「魔王」聞かせ、子どもにイメージ語らせる（たいてい「怖い」「追いかけているような」などが挙がってくる）。次にタイトルを言う。登場人物ごとに聞かせ、子どもたちに予想させる（どれが父、子、魔王か）。子どもだけ並べて、魔王だけ並べて比較して聴かせることも要素を感じて聞かせるために有効。
- ・売木中の実践から。比較させるときに「音楽の窓口」どこが決め手になっているか。同じ窓口で聞かせる（速度という観点、どんな楽器が使われているかなどの観点）。聞かせ方の工夫が重要。
「木星」の鑑賞。4分の3拍子のメロディ6回繰り返しの部分。1回目の部分だけ6回繰り返した音源を自作。オリジナルのものと比較させる。楽器・音量からの比較、ここから要素に結びついていく学習があった。
「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」の学習から。主旋律とベースラインは分かるが、真ん中が分からない。音楽を分解して聴かせた例。一番上を聞かせる、ベースラインを聞かせる、そこに真ん中を足していく。オリジナルを聞かせる。音楽の豊かさに戻していく。
- ・創作の授業は「授業を創作出来ていくことが」面白さ。創作でやらなければいけないこと。創作は一人ひとりの子を見られる、一人ひとりに手が入る。教師側の授業構想が大事。竹腰先生の実践では、形容詞の並べ方から考えられている。子どもたちの創作は「短い創作」。順番はベースライン→メロディ→オブリガード、ある程度の規定・制限がある。これがないと、子どもたちは曲をつくれなない。
- ・根羽中の実践。子どものイメージから2つの創作パターンが出てきている。自分が選んだ言葉に合わせて旋律をつくっている子、自分のイメージ（ソネットをもとに）で曲を作っている子、どちら

のよさも学べる。そのことを通して、お互いのよさを知りあっていく、位置付けていく。既習の「モルダウ」や「春」などの標題音楽と関連付けていく。「音符を細かくすることで」速さを表現していく子のすごさ。全体に広めてあげる。抑える所は教師が押さえる。

- ・開田中の実践。リズム選び→音程をつけていく。この流れが良い。使う音階の規定。評価するためにはとても良い。もう少し自由度が欲しいか。1年・2年・3年の学習の流れも大事。
- ・高陵中の実践。導入の意欲付けがよかった。キャッチフレーズに対してリズム作り。子どもたちの技能差をどう埋めるかを工夫して4分音符を多めにしたことよさ。子どもたちに何をさせていくか組み立てていくことが大事。「教師が創作の授業を創作する」。同じ枠組みでも子どもたちの反応が異なる。創作の授業は難しいと思わずに、取り組んでほしい。歌を歌う、楽器を演奏する。教師はよく分かっているので、子どもたちの分からなさ出来なさが分からない。創作の規定・限定をどこでかけるか。多くを望まない。枠を決めることが逆に子どもの創造性を高めることにつながる。

討議題2 鑑賞実践事例発表とICT機器を活用した鑑賞について～ワークショップ～

【ワークショップ～ICTを活用した鑑賞の授業～】

講師：音楽鑑賞振興財団 林田壮平先生

- ・ICTの事例。電子黒板やタブレットを使った授業実践。
- ・教育の情報化と音楽科教育
- ・ICTの活用例

附属長野中：自分の思いと音楽の構造とをかかわらせて表現する力を高める指導の在り方

【石川先生のご指導】

- ・iPadの利用で創作の困難点がクリアされている。音楽づくりをする上で、「創意工夫」をどうするか。「演奏技術」という困難点がクリアされる。簡単に旋律が変えられる。苦手な生徒も自分のつくったものを聴き比べて、直すことができる。試行錯誤できる。創意工夫できる。「技能を補うなにか」の工夫が必要だがiPadの利用で困難点が取り除かれている。自分のイメージしたものを楽譜に書きこんだら演奏してくれる、逆ができるものがあると使ってみたい。

討議題3 表現領域における生徒が主体的に取り組むための支援について

豊科北中：器楽の授業におけるグループ学習のあり方について

才教学園中：表現する楽しみ、ミュージカル作品を仲間と作り上げる

【白澤知代先生からのご助言・実践紹介】

- ・「ラヴァース・コンチェルト」のリコーダーの学習。師匠と弟子に分けてリコーダーの練習を進める。2年次に行って、3年次にはできない子が減った。
- ・合唱曲「風と」。しっかりとレガートで伸ばせる曲。きちんとしたものを、ゆったりと、声を出して。
- ・変声について。男の声を二つに分かれる。合唱の並びの中でも固める。テニスラケットの話。変声期のことを特に女子に理解させる。一生使う「のど」なので。
- ・合唱。成長につれ、男子は先輩の声にあこがれて歌うようになっていくが、女子の方が逆に歌わなくなっていく。奥手な女子たちの引っ張り方はどうしたらよいか。「女子聞こえないから全員ソプラノ歌いなさい。」(全員で旋律を歌う)もひとつの方法。歌える生徒を抜き出して伸ばしていく方法もある。
- ・発声練習は恥ずかしがる生徒たちに、やりやすい発声練習の方法。授業内で扱っている曲の中で、「この部分」を抜き出して発声練習にかえるのもひとつの方法。

【石川先生のご指導】

女子の発声について。心を開くのが難しい年代。ここをどうするか。学級の雰囲気・人間関係・学校の文化にもよる。何が何でも楽譜通りやるのではなく、生徒の実態・実力に応じて、斉唱に変えてみたり、「ここだけは」という部分だけ合唱にしたりしてみることも方法。音楽会の曲など、全てを音楽の時間内で終わらせることは不可能。学級活動との連携も必要。音楽の授業で全てができるわけではなく、授業で「つける力」があるということ、校内の先生方に分かっていただく。

教師が教材や授業にかける情熱が子どもに伝わるのが大切。

表現には「個人の表現」と「全体の表現」がある。

器楽・創作⇒個人の表現が見やすい。 歌唱⇒全体の表現が見やすい。

器楽の学習。一人ひとりにどのような技能をつけるか。ギター「Let it be」の実践から。一人1コードを分担して、つなげて弾いていく。⇒「一人で全て弾く」につなげていく。子どもがどこでつまずくか。子どものつまずきに寄り添うこと。「技能」だけでなく「創意工夫」。音楽の「美しさ」の追究をしてほしい。

(文責：塩尻市立丘中学校 大久保 慧)

V 本年度の反省と来年度の方向

◎本年度の反省

項 目	内 容
○本年度の研究テーマについて	<ul style="list-style-type: none"> ○「よい」というご意見多数。 ・大きなテーマで難しく感じましたが、一つ一つが全てこのテーマにつながっていくのでは・・・と思いました。 ・日々の授業に追われている中で、あらためて原点に立ち返れるようなテーマだったのでよかったです。 ・「生涯にわたって親しんでいこうとする心情を育む」というのは、音楽科の目標で示されているとおりに、とても大切なことであると思います。原点に戻るきっかけとなりました。
○研究の主な内容と研究の成果について	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽科は一人しかいないので、色々な学校の先生方の取り組みが聞けてよかったです。 ・「音楽の楽しさ」を味わってもらえるような授業を考えていきたい。 ・各校の先生方の実践から子どもへのかかわり方、より効果的な方法を学ぶことができ、とてもよい機会となりました。 ・全県テーマをあまり意識せずにやっていることに、今回気付きました。レポート作成に当たり、初めて知った感じです。すみません。 ・研究を行ってきたが、なかなか良い手立てを位置付けられず、良い気付きをしているのにもったいないことをしたと感じます。生徒の感想にもたのしさおもしろさについての記述が増えていたのでよい傾向も見えてきています。生徒達が自ら楽しさを感じつつ、授業を受けていると思います。しかし、生涯にわたってまでは至っていないので、さらに授業を工夫していきたいです。
○研究の方法や経過について	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱，創作，ICTとどれも魅力的な内容でよいと思う。 ・今回の参加を機に、さらに工夫してみたいと思います。また、実演・実技も体験でき、研究された実践に触れられてありがたいです。 ・歌唱分野，創作分野，ICTの活用とたくさんの方の事を勉強させていただきました。ワークショップもあり、うれしかったです
○研究会当日の運営について	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なご配慮ありがとうございました。 ・中学生の皆さんに丁寧に対応していただきました。ありがとうございました。 ・生徒の皆さんの受付・案内がとても丁寧ですばらしかったです。 ・遠くから来ることを考えるともう少し遅い集合でもいいと思います。 ・当日の運営もとても良かったです。ありがとうございました。体験できる

	<p>時間も多くあり、勉強になりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当の先生方のきめ細かいご準備のおかげで、研究会がスムーズに進行できていると思いました。
○研究集録等の Web ページ掲載について	(とくに意見なし)
○本年度運営全般について	<ul style="list-style-type: none"> ・11月も忙しいが、この時期しかないか……。早いと実践ができていなかったり、遅いと懇談会などになってしまうため。 ・今回は事前に提出のあったレポートが附属中以外に、1校しかなかった。司会者の先生には分科会構成アンケートをもとに司会計画を立てていただくしかなく、指導者の先生方にもその場で大量のレポートを読んでご指導いただくという形になってしまった。

◎来年度の方向

○来年度の研究テーマ	<p>○「今年度と同じ方向でよい。」というご意見多数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しく・達成感・喜び・教師が輝く授業 ・今年度のように、子どもたちに音楽の楽しさを感じてもらえるような授業について学びたいです。 <p>→来年度も、領域や分野を限定せず、すべての分野を扱えるようなテーマにしていく。</p>
○来年度の研究の趣旨	<p>「分野を一つに限定した上で研究の方向を決めだしていくとよいと思います」という意見もお一人あったが、全体に諮ったところ、領域・分野は限定しない方向でということに決まった。</p>
○来年度の研究の方法	

VI あとがき

お忙しい時期に、県下各地から、33校、35名の先生方にお集まりいただき、日々の授業実践をもとに、生徒の学ぶ様子を通して、指導のあり方を熱心に討議していただき、本年も多大な成果を収めることができました。

事前から、会の進め方、討議題の内容等、懇切丁寧にご指導いただきながら一つ一つのレポートに対してご示唆をいただいた長野県教育委員会中信教育事務所主任指導主事 石川武先生、東信教育事務所指導主事 西澤真一先生に心から感謝申し上げます。また、綿密な司会計画を立てていただき、討議を深めてくださった司会の望月光祐先生、渡澤由香先生、当日の記録及び研究集録のまとめに多くの時間を割いてご尽力いただきました記録の楠田美由紀先生、大久保慧先生、心より感謝申し上げます。そして、お忙しい中、日々の実践をレポートにまとめ、熱心に協議に参加され、研究会を実りあるものにしてくださった参会の先生方、本当にありがとうございました。

来年度の研究会にも、ぜひたくさん先生方のご参加をいただき、有意義な研究会になりますことを祈念申し上げ、まとめとさせていただきます。

音楽科委員長 安部 文江
副委員長 稲垣 典子